

平成28年3月17日

枚方市議会議長
大 森 由紀子 様

建設常任委員会
委員長 丹 生 真 人

建設常任委員会所管事務調査報告書

本委員会は、下記の調査事項について、別紙のとおり報告します。

記

1. 枚方市駅周辺再整備について

建設常任委員会 所管事務調査報告書

調査事項

枚方市駅周辺再整備について

＜調査事項とした経過＞

枚方市駅周辺地域は、行政サービス機能、商業・業務機能等が集積する中心市街地であるが、複数の大型商業施設が閉店したことなどもあり、かつてのにぎわいが失われた状況にあった。また、通過交通による駅前広場の混雑、周辺施設の老朽化などの課題もあり、こうした課題への対応とともに、中心市街地にふさわしい、にぎわいのあるまちの構築を目指して、平成25年3月、枚方市駅周辺再整備ビジョン（以下「ビジョン」という）が策定された。

現在は、枚方市が中心となってビジョンの実現に向けた取り組みが進められているが、地権者との交渉など、その取り組みは、本市議会や市民にとって非常に見えにくい状況にある。しかし、枚方市駅周辺再整備は、枚方市全体に影響を与える一大プロジェクトであり、その重要性に鑑みて、委員からは、本委員会の所管事務調査の中で取り組みの状況を確認するとともに、今後の方向性などについても委員間で協議し、意見を述べてはどうかとの声が上がリ、今回、「枚方市駅周辺再整備について」を調査事項とするに至った。

調査経過

1. 関係者からの説明の聴取等

- (1) 平成27年 8月18日 建設委員協議会…【調査内容1】※その後の状況を反映
ビジョンの実現に向けた取り組み（交通基盤整備を除く）の現状、課題等について、枚方市都市整備部を中心に説明を受け、質疑応答
- (2) 平成27年 9月15日 建設委員協議会…【調査内容2】
ビジョンの実現に向けた取り組みのうち、交通基盤整備に特化し、現状、課題等について、枚方市土木部を中心に説明を受け、質疑応答
- (3) 平成27年12月18日 建設委員協議会…【調査内容3】
今後の④街区（後述）のあり方について、委員間で協議
(注) この際、委員から出た意見を参考に、枚方市都市整備部がコンピューターグラフィックスによるイメージ映像を作成したため、平成28年3月8日に建設委員協議会を開催し、その映像を確認した（後掲）。
- (4) 平成28年 1月19日 建設委員協議会…【調査内容4】
枚方市駅周辺のこれからのまちづくりのあり方とエリアマネジメントに向けた商工会議所の役割について、枚方市駅周辺再整備ビジョンに関する意見聴取会（旧枚方市駅周辺再整備ビジョン専門検討委員会）のメンバーであった北大阪商工会議所の説明を受け、質疑応答
(注) 平成27年12月18日には、枚方市駅周辺再整備について、同じく意見聴取会のメンバーであった京阪電気鉄道株式会社の説明を受け、質疑応答を行ったが、同社の意向により、建設委員協議会の形式をとらなかった。

2. 先進都市研修…【調査内容5】

(1) 平成27年11月27日 大阪府和泉市

和泉府中駅東第一地区第二種市街地再開発事業について、和泉市都市デザイン部の説明を受け、質疑応答、現地視察

(2) 平成28年 1月27日 東京都世田谷区

二子玉川東地区のまちづくり（市街地再開発事業）について、世田谷区拠点まちづくり担当部から説明を受け、質疑応答、現地視察

(3) 平成28年 1月28日 神奈川県川崎市

武蔵小杉駅周辺のまちづくり（市街地再開発事業）について、川崎市まちづくり局市街地開発部から説明を受け、質疑応答、現地視察

3. 報告書の作成

(1) 平成28年 2月23日 建設常任委員会

報告書に記載する内容について、委員間で協議

(2) 平成28年 3月 8日 建設常任委員会

報告書案を提示

(3) 平成28年 3月17日 建設常任委員会

報告書の内容を確定

調査内容

1. ビジョンの実現に向けた取り組み（交通基盤整備を除く）の現状、課題等について

(1) まちづくりの方向性（現状及び課題）

ビジョンで示されたまちづくりの方向性に沿って現状及び課題を列挙すると、おおむね次のとおりである。

① 広域的な拠点としての機能の更新、充実

＜現状＞

- ・ 行政、商業、医療等の機能集積
- ・ 公共施設や地域内ビルの老朽化
- ・ 低未利用地の存在

＜課題＞

- ・ 施設の更新、まちのリニューアルによる機能強化
- ・ 低未利用地の有効活用

② 社会環境や市民ニーズに対応した都市機能の集積、強化

＜現状＞

- ・ 集客力の低下による大型商業施設の閉店
- ・ 地域の人口減少と少子・高齢化の進行
- ・ 市民ニーズの多様化

＜課題＞

- ・ 時間消費型施設や景観への対応、活性化による集客力の回復
- ・ 居住人口の増加
- ・ 地域の緑化推進

③ 人々の活動や交流を促進する交通基盤のネットワーク展開（後述）

④ 地域資源と文化芸術活動を生かした枚方らしさの創出

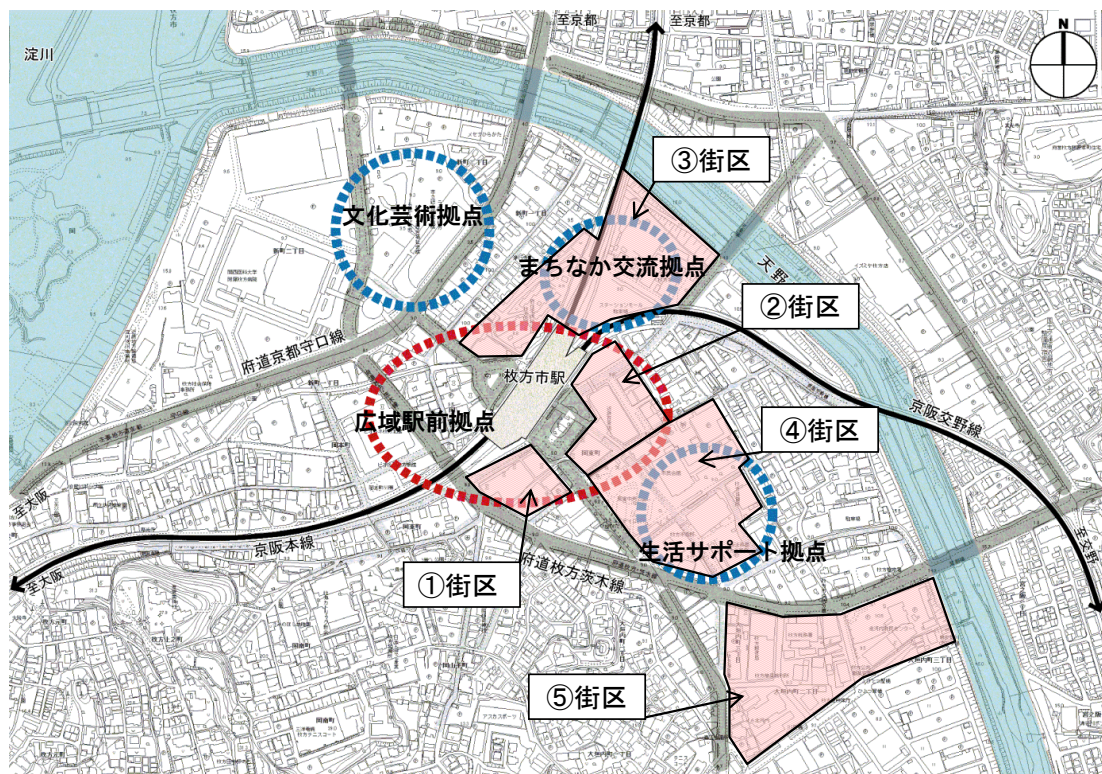
＜現状＞

- ・ 淀川等の自然資源、枚方宿等の歴史資源の存在
- ・ 市民の活発な各種文化芸術活動
- ・ 地域内の大学を含む市内6大学の立地

＜課題＞

- ・ 地域資源を活用した枚方らしさの創出と情報発信
- ・ 市民文化芸術活動や大学のあるまちを感じられる地域への転換
- ・ 地域の活性化への寄与

（２）市街地整備に関する主な取り組み（下図参照）



ビジョンでは、既存の広域駅前拠点をより一層強化するとともに、新たに3つの拠点（文化芸術拠点、まちなか交流拠点、生活サポート拠点）を形成することにより、まち全体にゆとりを持たせ、回遊性を向上させることで、にぎわいの創出につなげるとしており、現在、ビジョンの実現に向け、主に次のとおり、街区ごとに市街地整備に関する取り組みが進められている。

①街区（旧三越枚方店が含まれる街区）

土地及び建物の権利者（総数26人）と枚方市による意見交換会を実施

②街区（ひらかたサンプラザビルが含まれる街区）

- ・ ひらかたサンプラザ1号館
ひらかたサンプラザ1号館再生協議会（区分所有者及び入居者52人で構成）
においてリニューアルや建てかえの検討
- ・ ひらかたサンプラザ2号館
平成28年5月に枚方T-SITEがオープン予定
- ・ ひらかたサンプラザ3号館
枚方T-SITEのオープンに合わせたリニューアル工事の実施

③街区（大阪府住宅供給公社枚方団地、京阪電気鉄道株式会社枚方事務所、旧長崎屋枚方店が含まれる街区）

枚方市駅東地区再整備検討協議会（大阪府住宅供給公社、京阪電気鉄道株式会社、枚方市で構成）において土地利用等の検討

④街区（市民会館、市役所本庁舎が含まれる街区）

枚方市駅周辺再整備ビジョン推進委員会（枚方市の庁内委員会）において市民会館跡地の土地利用等の検討

⑤街区（官公庁団地が含まれる街区）

枚方市における国・府・市有財産の最適利用推進連絡会議（近畿財務局、大阪府、枚方市で構成）において合同庁舎化の検討

（３）委員会の意見

上記の調査をもとに、委員間で協議を行ったところ、次のとおり意見が一致した。

○ ビジョンを実現するには、権利者を初め、地域内の関係者の合意形成が不可欠であるが、早期に合意形成に至るには、関係者の自発的な取り組みに任せるだけでなく、枚方市が行政として主導的役割を果たし、みずから最適と考える事業手法等を明示する必要がある。ビジョンの策定から３年が経過し、既にその時期が来ているものとする。その上で、関係者が参加する協議体（後述）のもとで積極的に合意形成を図り、ビジョンの推進を図る必要がある。

○ 枚方市駅周辺で継続的にぎわいを創出するには、この地域の居住人口を増加させることが一番の近道である。そのことは、本委員会で実施した先進都市研修（後述）からも明らかである。居住人口を増加させるには、この地域で容積率の制限を緩和し、土地の高度利用を図って住宅整備を促進するとともに、岡東中央公園など既存のオープンスペースと緑を生かし、ゆとりが感じられる、魅力的なまちづくりを進めるべきである。

なお、各委員から、次のとおり意見が出された。

＜広域的な拠点としての機能の更新、充実について＞

- ・ 今回の枚方市駅周辺再整備が全てではない。時代に合わせた変化が必要になるため、中長期的な改善サイクルも考えておく必要がある。
- ・ ビジョンの早期実現を図るためには、市役所本庁舎を早期に移転させなければならない。
- ・ 地域内のビルが老朽化しており、枚方市駅周辺再整備を進める前に、耐震化の方策等を示す必要がある。

＜社会環境や市民ニーズに対応した都市機能の集積、強化について＞

- ・ 枚方市駅周辺における住宅整備の促進に向け、居住人口に関する目標値を設定してはどうか。
- ・ スマートエイジング・シティの考え方にに基づき、健康、医療等に関する機能を集積してはどうか。
- ・ 今後、立地適正化計画で誘導する施設が重要であり、市民ニーズが高い図書館、保育所等を誘導してほしい。
- ・ 枚方市駅周辺のオープンスペースの管理運営を民間事業者に任せて、にぎわいの創出を図ってはどうか。そのためにも、道路管理上の規制を緩和すべきである。

＜地域資源と文化芸術活動を生かした枚方らしさの創出について＞

- ・ 影響力の大きい枚方T-S I T Eがいち早くオープンすることから、その施設内容等を踏まえ、枚方市駅周辺再整備を行う必要がある。
- ・ 関西医科大学枚方学舎、同大学附属枚方病院の関係者も多数に上るため、その影響力も考慮に入れる必要がある。
- ・ 総合文化施設の整備とあわせ、淀川の自然、周辺の歴史遺産等のP Rスペースを設けてはどうか。付近での遊歩道、サイクリングロードの整備等も有効である。

＜その他＞

- ・ 現在は約9万人である枚方市駅の乗降客数を10万人以上にすることを目標の一つにしてはどうか。
- ・ 枚方市駅周辺再整備については、多数の部署が関係するため、その推進のため、枚方市として一体的な組織体制を構築する必要がある。

2. ビジョンの実現に向けた取り組み（交通基盤整備）の現状、課題等について

（1）まちづくりの方向性（現状及び課題）

ビジョンで示されたまちづくりの方向性（前述の③のみ）に沿って現状及び課題を列挙すると、おおむね次のとおりである。

③ 人々の活動や交流を促進する交通基盤のネットワーク展開

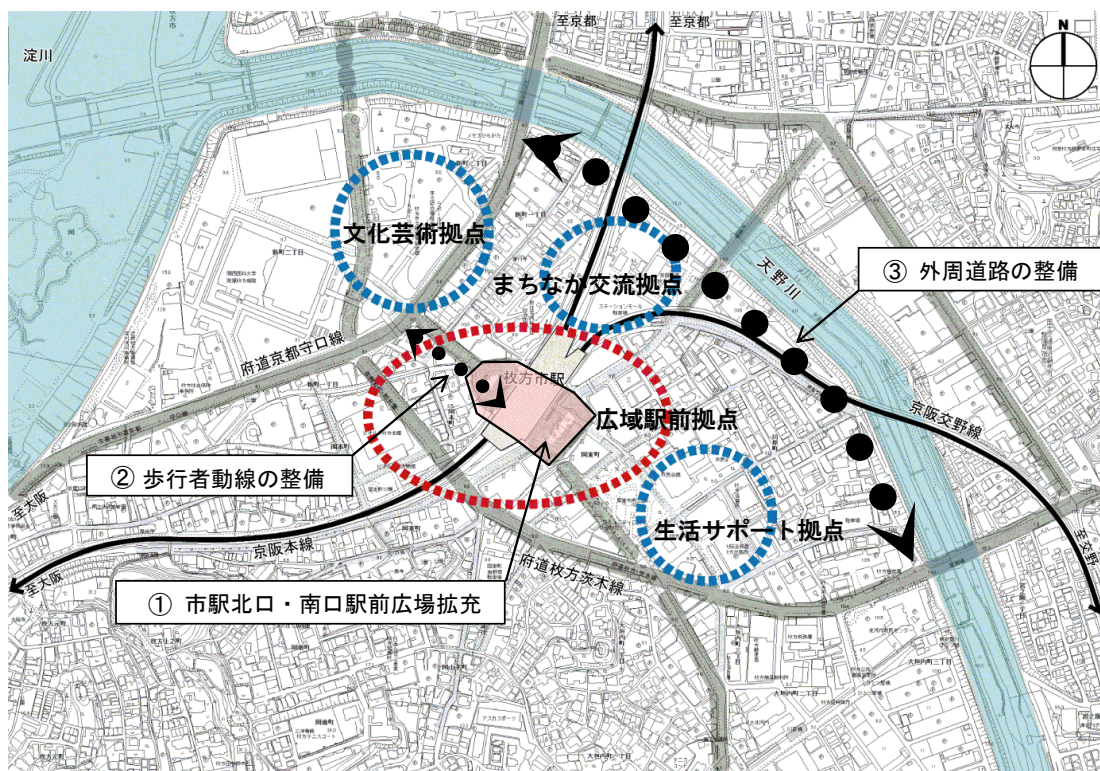
＜現状＞

- ・ 鉄道乗降客数約9万人／日の特急停車駅
- ・ バス乗降客数約4万人／日、48路線、便数約1,000本
- ・ 府道京都守口線の交通混雑

＜課題＞

- ・ 駅前広場の交通動線の円滑化、通過車両の抑制
- ・ 安全、安心な歩行者空間と自転車動線の確保
- ・ 乗りかえ利便性の向上

（2）交通基盤整備に関する主な取り組み（下図参照）



ビジョンでは、まちの活性化、にぎわいの創出には、まちへのアクセスや地域内での移動を円滑にする必要があるため交通環境の改善を図るとしており、現在、ビジョンの実現に向け、主に次のとおり、交通基盤整備に関する取り組みが進められている。

① 枚方市駅北口・南口駅前広場の拡充

交通結節点としての機能充実を図ることを目的として、各街区の権利者の意向も踏まえながら、南北それぞれの駅前広場について、通過車両の抑制や歩行者動線を考慮し、実現可能な最適案の選定に向けて検討

② 枚方市駅北側における歩行者動線の整備

文化芸術拠点・枚方市駅北口間の安全な歩行者動線を整備するため、実現可能なルートについて、歩行者用デッキの設置も視野に入れながら、各施設管理者の意見を踏まえて検討

③ 外周道路の整備

枚方市駅中心部への一般車両の通過車両の抑制を主目的として、府道京都守口線から府道枚方茨木線までの天野川沿いのルートについて、京阪電鉄の軌道基礎構造の確認と各関連街区との調整を図り、実現可能なルートを検討

(3) 委員会の意見

上記の調査をもとに、委員間で協議を行ったところ、次のとおり意見が一致した。

- 枚方市駅周辺でゆとりとにぎわいを創出するには、歩行者を優先的に考え、駅前広場の回遊性を高める必要がある。また、前述のとおり、岡東中央公園を生かし、魅力的なまちづくりを進めるに当たっては、同公園と連続性がある枚方市駅南側の駅前広場において、特に十分な歩行者空間を確保すべきである。
- 現在、枚方市駅前のロータリー内には、バス、タクシー、一般車両が混在しており、安全性の確保、交通の円滑化の観点から問題があるため、駅前広場の拡充にあわせて、これらの分離を図る必要がある。
- 現在、文化芸術拠点から枚方市駅北口までの歩行者デッキの設置について、一定の検討がなされているが、枚方市駅の北側は道路の幅員が十分でなく、歩行者デッキの設置により地上部分が暗くなるなど、課題が多いことから、費用面も含め、慎重に考える必要がある。

なお、各委員から、次のとおり意見が出された。

＜枚方市駅北口・南口駅前広場の拡充について＞

- ・ バスルートについて事業者と協議するなど、現在、枚方市駅の南北に分かれているバスロータリーを1つに集約できないか。また、バスロータリーの上層部を含め、土地や空間の有効利用を図るべきである。
- ・ 枚方市駅とバスロータリーの間には一定の距離を設けて、その間に商業施設やイベントスペースを整備するなど、にぎわいの創出を図るべきである。ただし、その場合でも、バス降り場はできるだけ駅に近づけるなどの配慮が必要である。
- ・ スマートエイジング・シティの考え方を取り入れ、枚方市駅周辺の居住者に高齢者が多いと想定した場合、枚方市駅とバスロータリーの間は近接しているべきである。また、バリアフリー整備も必要となる。

- ・ バス等の公共交通と一般車両を分ける際、例えば、駅南側のロータリーを公共交通用、北側のロータリーを一般車両用としてはどうか。
- ・ 規模は小さいが、JR長尾駅のように、歩行者動線を確保した上で、一般車両とバス等の公共交通の停車場所が確保されているのが理想的な形である。
- ・ 通過車両と枚方市駅に来る車両を分けて考え、枚方市駅に来る車両については、一方向から入って、一方向から出るという循環型の動線を確立すべきである。
- ・ 府道京都守口線が渋滞することにより枚方市駅の通過車両が増えるような交通動線だけは避けなければならない。
- ・ 通過車両を抑制するため、枚方市駅高架下の南北交通を遮断する考え方が示されていたが、駅利用者にとっての利便性を第一に、むしろどのような乗り入れが可能かという視点で考えてはどうか。
- ・ もし実際に南北交通を遮断するならば、市民生活への影響が大きいため、事前に十分な説明を行うなど、慎重に進める必要がある。

＜枚方市駅北側における歩行者動線の整備について＞

- ・ 総合文化施設と駅の間を行き来する人の動線を確保する必要がある。この点については、歩行者が府道京都守口線の交通に影響を与えないよう、早期に歩道を拡幅するなどの対策を講じてほしい。

＜外周道路の整備について＞

- ・ 外周道路については、早期整備が必要である。また、整備に当たっては、公共交通のあり方について、交通事業者とともに研究すべきである。
- ・ 外周道路を整備する際は、総合文化施設開設の影響を考慮に入れる必要がある。

＜その他＞

- ・ 関西医科大学附属枚方病院は、枚方市の災害時医療の中心となるため、枚方市駅周辺における防災空間の設置と同病院までのルート確保が必要である。

3. 今後の④街区のあり方について

（１）本市が考えるまちのイメージ

枚方市駅の駅前広場をまちなかのオープンスペースと捉え、また、合同庁舎前にも広場等を計画することにより、人々が憩えるオアシスとしてオープンスペースを形成する。これら２つのオープンスペースをつなぐプロムナード（現在のふれあい通り）を人々が行き交う交流の場とし、オープンカフェや並木道をイメージした、にぎわいあふれる回遊動線の創造を目指す。さらに、この回遊動線においては、人優先の快適で安全な歩行空間の創出を目指すとしている。

（２）委員会の意見

上記の調査をもとに、委員間で協議を行ったところ、次のとおり意見が一致した。

- ④街区では、前述のとおり、岡東中央公園を生かしたまちづくりを行い、オープンカフェを誘致するなど、年代を問わない憩いの場を提供すべきである。
- ④街区は枚方市所有の土地が大部分を占め、これを種地として庁舎建てかえ等の資金を調達する必要があるため、特に民間事業者による高層マンションの建設が有効と考える。また、その際は、低層階に商業施設を配置することで、にぎわいの創出を図るべきである。

また、こうした委員の意見を参考にして、枚方市都市整備部が作成したコンピューターグラフィックスによるイメージ映像は次のとおりである。



なお、各委員から、次のとおり意見が出された。

- ・ 岡東中央公園は、ふるさと枚方のよさを発信できる場であってほしい。
- ・ 商業施設を誘致する際、市民との協働により、若者の開業を支援する取り組みを行ってはどうか。
- ・ 子育て世代が訪れるためには、一定の駐車場が必要である。
- ・ ④街区は地価が高いことから、特に土地利用の高度化を図らなければならない。
- ・ ④街区の土地を種地として活用する際は、庁舎建てかえの資金調達などのため無条件に民間事業者に売却するのではなく、定期借地権を設定するなど、さらに次の庁舎建てかえなどを見越した手法を検討する必要がある。
- ・ 枚方市駅周辺で民間事業者が所有している土地に公共施設を移転させ、④街区の土地と等価交換を行うなどの手法も検討してはどうか。
- ・ ④街区を初め、枚方市駅周辺は、樟葉駅周辺とは異なり、基本的には官公庁のまちであると考え。その中で、居住空間と商業空間の整備をマッチングさせる取り組みが必要ではないか。
- ・ 大阪府市医療戦略会議の提言で枚方市駅周辺エリアがスマートエイジング・シティの候補地に挙げられているため、その利点等について大阪府に確認した上で民間事業者の誘致を進めるべきである。
- ・ スマートエイジング・シティの考え方を取り入れ、健康・医療関係施設を配置した特徴的な高層マンションなどが建設されれば、非常に人気がある街区になるのではないか。
- ・ ④街区だけにとどまらず、民間事業者と連携し、隣接する川原町一帯を含めて、再整備を行ってはどうか。

4. 枚方市駅周辺のこれからのまちづくりのあり方とエリアマネジメントに向けた商工会議所の役割について

(1) 北大阪商工会議所の取り組み

北大阪商工会議所は、中心市街地の再整備や活性化を行政だけに任せるのではなく、みずから特別委員会を設置して検討を行った成果を、「枚方市駅周辺のこれからのまちづくりのあり方とエリアマネジメントに向けた商工会議所の役割」と題し、平成26年6月に取りまとめた。その後も、枚方市駅周辺のエリアマネジメントを実際に担うべく、継続した取り組みを行っている。

(2) 委員会の意見

上記の調査をもとに、委員間で協議を行ったところ、次のとおり意見が一致した。

○ 北大阪商工会議所では、枚方市駅周辺の再整備や活性化に向けて、自身に加え、行政機関、鉄道事業者、地権者、商業者、市民（団体）、大学、有識者等で構成される協議の場の設置を検討している。関係者の合意形成を図るためにも、こうした協議体を活用すべきである。

なお、各委員から、次のとおり意見が出された。

- ・ 枚方市駅周辺再整備については、総務、建設の各常任委員会の所管にまたがる議論が必要になるため、本市議会に特別委員会を設置するよう提案してはどうか。
- ・ 市議会議員の任期を通じて持続的かつ専門的に議論する観点からも、本市議会として枚方市駅周辺再整備に関する特別委員会を設置すべきである。
- ・ 枚方市駅周辺では、株式会社ソウ・ツウの取り組みが先行しており、ぜひ状況を聞いてみたい。また、他の地権者の動向にも興味がある。
- ・ 枚方市は、ビジョン策定の際、地元事業者、学識経験者等の意見を聞いているが、北大阪商工会議所の話を知ると、うまく意見が吸い上げられていなかったのではないかという疑問が残る。
- ・ 民間事業者の協力を得るためには、資金繰りの関係もあり、行政としての方針を早期に示す必要がある。また、枚方市駅南側におけるまちづくりのビジョンだけでなく、北側におけるまちづくりのビジョンも具体的に示してほしい。
- ・ 北大阪商工会議所からは、「なかなか現状がわからない」という声があったため、枚方市は、積極的な情報公開に努めてほしい。

5. 先進都市研修について

(1) 和泉府中駅東第一地区第二種市街地再開発事業について【大阪府和泉市】

和泉府中駅周辺については、①和泉市の都心として「都市核」の形成を図るとともに、商業・業務活動に新たな活力をもたらすこと、②土地の高度利用と都市機能の更新を図り、災害に強い住まいづくりを進めること、③地域の文化・交流活動の促進を図り、コミュニティ施設の整備を進めることなどを目的に再開発事業が行われた。

(2) 二子玉川東地区のまちづくり（市街地再開発事業）について【東京都世田谷区】

二子玉川東地区については、地元の発意による市街地再開発事業を契機に、大規模未利用地を活用した土地の合理的な高度利用と、都市機能の更新を行うことにより、駅周辺の商業及び業務の活性化を図っている。また、都市機能の集積に見合った都市基盤の整備を行い、広域生活拠点にふさわしい魅力あるまちづくりを行っている。

(3) 武蔵小杉駅周辺のまちづくり（市街地再開発事業）について【神奈川県川崎市】

武蔵小杉駅周辺については、「民間活力を活かした魅力ある広域拠点の形成」を図る地区として、ユニバーサルデザインに配慮しながら、駅前広場、道路等の公共施設を整備、改善し、商業、業務、文化交流、医療、文教、都市型居住等の機能を集積させた「歩いて暮らせるコンパクトなまちづくり」を推進している。

(4) 委員会の意見

上記の調査をもとに、委員間で協議を行ったところ、次のとおり意見が一致した。

○ 先進都市研修で現地視察を行い、にぎわいの創出に成功していることが確認できた鉄道駅の周辺では、いずれも駅近くで居住機能の集積が見られたため、この点については、枚方市駅周辺再整備においても参考にすべきである。

なお、各委員から、次のとおり意見が出された。

＜和泉府中駅東第一地区第二種市街地再開発事業について＞

- ・ 駅前の一等地にある再開発ビル内に市立図書館を配置した点については、参考にすべきかどうか評価が難しい。

＜二子玉川東地区のまちづくり（市街地再開発事業）について＞

- ・ 民間事業者で構成される協議会が二子玉川駅前のイベントスペースの運営を行っていた点は参考になる。
- ・ ビル風対策を行っていた点は、今後、枚方市駅周辺に高層ビルを建設するのであれば、参考になる。
- ・ バス用とタクシー用でロータリーを2つに分け、その真ん中を歩行者用通路として、駅までの歩行者動線を直線的に設けていた点は参考になる。

＜武蔵小杉駅周辺のまちづくり（市街地再開発事業）について＞

- ・ 駅周辺の商業施設に屋上庭園があり、子どもが楽しめる工夫がされていた。保護者等の集客も含めて、にぎわいの創出という点では参考になる。
- ・ 駅周辺に消防署と民間ホテルの複合施設が立地しており、限られた土地を有効に利用するためには、こうした柔軟な発想が必要である。
- ・ 住宅開発の際、開発業者に一定の戸数ごとに保育所の設置を求めることを要綱に定めていた点は参考になる。
- ・ 大規模な高層マンションを同時期に複数建設していたので、50年後、一気に高齢化が進むことなどを想定し、対策を考える必要があると感じた。

＜その他＞

- ・ 鉄道駅周辺のまちづくりにおいては、いずれも鉄道事業者の役割が重要であると感じた。これに加え、民間のデベロッパーがかかわらない限り、先進的なまちづくりはできないのではないかと。その際の行政の役割は、規制を緩和して、まちづくりが円滑に進むように条件を整えることにある。
- ・ 枚方市と先進都市研修に訪れた都市とでは規模等が異なることから、参考にできるかどうか冷静に判断しなければならない。
- ・ 枚方市駅周辺にマンションを建設するにしても、需要の裏づけが必要であり、販売価格帯なども適正なものとする必要がある。

委員名簿

職 名	氏 名	所 属 会 派
委 員 長	丹 生 真 人	公 明 党 議 員 団
副 委 員 長	堤 幸 子	日 本 共 産 党 議 員 団
委 員	高 野 寿 陞	自 由 民 主 党 議 員 団
委 員	木 村 亮 太	未来に責任・大阪維新の会
委 員	中 武 貞 勝	連 合 市 民 の 会
委 員	福 留 利 光	連 合 市 民 の 会
委 員	有 山 正 信	公 明 党 議 員 団
委 員	堀 井 勝	民 主 市 民 議 員 団

(委員名は議席順)

終わりに

今回の所管事務調査においては、関係団体と意見交換を行う機会を複数回設けるなど、積極的に外部に知見を求めた。こうした取り組みは非常に有意義であるという声が委員からも上がっており、本報告書の提出後においても、常任委員の任期が許す限り、こうした機会を設けることができないか、可能性を探っていきたいと考えている。

また、本報告書中には、委員間で一致した意見はもちろん、各委員から出された貴重な意見も多数掲載しており、理事者を初め、関係者の皆さんには、ぜひとも参考にしていただきたい。

改めて申し上げますと、ビジョンの実現には、枚方市が主導的な役割を果たすとともに、地域内の民間事業者等との連携が必要である。さらに、この点については詳細な調査を行うことができなかったが、国・府・市の合同庁舎化による枚方市本庁舎の移転も早期実現の鍵になろう。

今後は、時間の経過とともに、ビジョンの考え方が社会情勢等に合わない事態も想定されるが、その際は柔軟な発想を持って、枚方市駅周辺のまちづくりにとって真に必要であれば、ビジョンの変更をいとわず、関係者の理解を求めながら、継続的にぎわいの創出に向け、枚方市駅周辺再整備の一日も早い実現を望むものである。

以上